

自分はどれだけ恵まれているのか。私たちは、つい他者と比較してしまいます。国別の幸福度や都市別の魅力度など、さまざまなランキングがまたにあふれ、政策や教育にも影響を及ぼします。時には、経済のありようにも。文化心理学者で京都大准教授の内田由紀子さんと思想家の佐伯啓思さんの対話は、「幸福度」のリアルについても探求を続けます。

佐伯 これだけ暮らしが豊かになっても、諸外国に比べて、日本人の幸福度は低いと言われます。

★ 人並み感を重視

内田 幸福かどうかは主観的なもので、直接に比較するのは難しい。かつてはGDP(国内総生産)や平均寿命、教育水準などの指標が使われていました。でも経済的な豊かさは、幸福感とイコールではない。そこで、フータンの「GNH(国民総幸福量)」という、経済指標以外の要素を入れた物差しが注目されるようになりました。

国際的な調査結果では、同じ程度の経済水準の国と比べると、日本の幸福度の数値は低く、平均値だけ見ると日本人は経済状態の割には不幸せな国だ」という結論になります。ただ、注意すべきなのは、日本的な幸福度は、他者との関係や周囲の評価という要素



内田由紀子さん

脱・成長主義!

佐伯啓思さんが

文化心理学者 内田由紀子さんと語る

と語る ①

も絡む。世間並みの暮らしができていないか、周りの人たちも幸せか、など「人並み感」も重視される。また内閣府の調査で「あなたは今、10点満点でどれくらい幸福ですか」という質問の回答は平均で6.5程度。低いようですが、実は理想の幸福度を尋ねても7点程度です。欧米のように8点、9点にする目標が適切なのかどうかは考える必要があります。そもそも、文化が違う以上、単純な比較やリンク付けは誤解を招きます。

佐伯 グローバル化や構造改革とい

「調和」の幸福感を世界へ

うのは基本的にアメリカモデルを日本に持ち込むこと。協調や横並びより、競争や個人主義、能力主義が重視されます。内田さんのような、若い世代を見ると、昔とは変わってきているように見えるけど、どうですか。

内田 確かに、さまざまな価値観の転換が迫られています。私の世代は過渡期だと思います。1994年に大学に入学して、96年ごろには先輩たちが就職氷河期で苦勞する姿を見た。親は団塊の世代で、激しい競争にもまわりましたが、頑張ればそれなりに成果が手に入れた。でも、私たち団塊ジュニア世代は、競争に勝つても大した結果は得られなかったという実感がある。

佐伯 社会は進歩するというのが自明のこととして信じられるかどうかの差は大きい。1960年代から70年代は経済が好調で、成功モデルとして一流大学から大企業に入るというレールがあった。反体制の学生運動は盛んだったが、大部分の若者はいつの間にかレールに戻って就職した。そのレールが90年代のバブル崩壊で壊れて、分かりやすい成功モデルがなくなった。何が幸福なのかも分からなくなった。

そこに入ってきたのがアメリカ型の構造改革であり、IT革命や金融革命です。既得権益を壊し、規制緩和を進めればビジネスチャンスはいくらでもあ



佐伯啓思さん

能になるぞと盛んに宣伝されました。内田 それは経済学者が、よかれと思っ

★ 構造改革の想定外

佐伯 いくつかの要因がありますね。アメリカ型の経済が正しいと純粋に信じていた教科書風の経済学者もいれば、規制緩和を唱えることでアメリカの政府や学界とつながることが自分の利益になるという学者やジャーナリストもいた。一見、希望のありそうな話で国民の支持を得たいと思う政治家もいたし、日米関係重視でアメリカの圧力を受け入れた政治家もいた。アメリカの説明も巧妙で、日本の物価が高いのはいろんな規制があるせいだ、自由競争によって消費者も得をしますよ、と。これにマスコミも飛びつ

内田 当時は、日本経済が悪化して大きな会社も倒産したので、改革や変化というメッセージに魅力があったのは確かです。若者の間でも、大企業や公務員も安定志向すぎるという風潮さえ一時あった。人と違う、とがったことをするのが格好いいと。ホリエモン(堀江貴文・元ライブドア社長)とかが脚光を浴びるわけですね。

佐伯 小泉政権が構造改革の旗を振った時は大勢の人が小泉さんを応援しました。街頭演説に来ると言えは、ここ京都でもそうだったが、炎天下、1

新しい日本型モデル育て

万人を超える人が集まった。内田 でも結局、新たな金脈がなければ、「ウイン・ウイン」にはならない。成長に限界があれば、競争が激しくなると、勝つ人、負ける人がはっきりするだけ。その辺まで見越せば、規制撤廃ばかりではまずいのでは、と想像できたはず。

佐伯 アメリカ型の幸福感や契約社会に基づいた改革を持ってきて、自由主義、個人主義の時代だと言っても、日本には十分な下地がない。

内田 それも成果主義とか表面的な部分だけ導入するから、矛盾が生まれやすい。アメリカの幸福モデルは教育と連動していて、子どもの頃から主体性を育むトレーニングをしています。自尊心を育て、自己主張する方法を教えながら、「個」の力を鍛える。日本は用意されたシステムに乗っかっていれば安泰という社会だったが、突然はしごが外されて、主体性もない、安定して歩けるレールもない状態です。

佐伯 一つ希望があるとすれば、大きな組織に属さず、好きなことに没頭したり、理念を大切にしたい新しいことに挑戦する若い人が結構出てきていること。それに、「マイルド・ヤンキー」などと言われますが、大都市ではなく地方都市で、「そこそこ」の生き方を樂しむ人も増えているように見える。成長志向でも競争志向でもない、新しい日本型モデルが育ってほしいですね。

内田 同じ環境を共有している、子どもの頃からの友人同士でつながり続けるようなグループもある一方で、外向きに広く、世代を超えて同じ価値観でつながろうとする人たちも増えていきます。全体として「個人の成功」より「他者との調和」を大事にする傾向は強まっていると思います。関係性の中にある幸福に価値を見いだすことは、社会の持続性にもつながる。日本的な幸福感の指標も世界へ発信していきたいですね。